INTERVIEW

セネガルでのFSRU傭船事業にプロジェクトファイナンス

発電船に天然ガスを供給、重油からの燃料転換に貢献

産業ファイナンス部門 船舶・航空部 第1ユニット
関口 瑞希 係員に聞く

JBICは、2022年12月、株式会社商船三井が出資するマーシャル諸島共和国法人SENEGAL LNGT COMPANY LIMITED（SLNG）との間で、セネガル共和国において発電船に天然ガスを供給するFSRU（浮体式LNG貯蔵再ガス化設備）の傭船事業を対象に、融資金額約3,500万米ドル（JBIC分）を限度とするプロジェクトファイナンス（PF）による貸付契約を締結しました。本融資は、株式会社三菱UFJ銀行との協調融資（総額約7,100万米ドル）です。

西アフリカ初のLNG発電船事業に供するFSRU

今回のプロジェクトは、西アフリカのセネガル共和国において、液化天然ガス（LNG）をSLNGが保有する浮体式LNG貯蔵再ガス化設備（Floating Storage and Regasification Unit：FSRU）で再ガス化し、LNG発電船に供給・発電し、発電した電力を国営電力公社に売電する事業です。本融資は、FSRUを傭船するために必要な資金に充てられます。

「本プロジェクトは、FSRUとLNG発電船を組み合わせた事業で、2019年より操業している重油焚きの発電船（発電容量235MW）の燃料を、環境負荷の少ない天然ガスに転換することが可能となります。同発電船はセネガルの電力需要の約15%を担っており、天然ガスへの転換により同国のエネルギートランジションに貢献します。

事業主体となるSLNGには、世界最大の海運会社の一つである商船三井と、発電船事業で世界トップクラスのトルコのKarpowership社が出資しています。両社は、LNG発電船事業でパートナーシップを結んでおり、その第1号案件が今回のセネガルでのプロジェクトになりました。

船舶に発電設備を搭載して洋上で発電する発電船は、陸上に発電所を建設するよりも経済的で建設期間も短いなどの長所があり、電力需要が高まっている新興国や途上国などで注目されています。しかし、多くの発電船は重油を燃料にしており、環境負荷低減、低炭素化に向けて天然ガス焚きによるエネルギートランジションが望まれています。」と、関口係員は概要を紹介します。

セネガルの石油・エネルギー次官とオンラインミーティング

本件は、2019年に商船三井からPFによる資金調達の相談がありました。JBICでは、2018年にインドネシアの「ジャワ1 Gas-to-Powerプロジェクト」において、FSRU傭船を含む事業にPFを供与した実績がありますが、FSRU傭船事業単独でのPFは初めてのことで、事業形態や契約条件などの詳細を検討してきました。

「私は、契約交渉が本格化した2022年夏から本件を担当しました。商船三井のパートナーであるKarpowership社とは初めてのお付き合いだったので、リモートでの交渉では難しい面もありました。新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着いた10月に、Karpowership社の事業開発責任者の方が来日され、JBICにて商船三井、三菱UFJ銀行を交えてキックオフミーティングを開催できたことが大きかったですね。お互いに顔をあわせてお話しすることで信頼が生まれ、プロジェクトの重要性を共有することができました。以後のリモートでの契約交渉でも、JBICの契約条件や環境保全の考え方などについてKarpowership社と忌憚なく対話でき、ご理解いただくことができました。

もうひとつ重要だったのは、セネガル政府のエネルギー政策を確認することでした。そこで、セネガル駐日大使館を訪問して大使と面談し、本件がセネガルの政策に沿ったものであるという認識を共有しました。さらには、JBICのパリ事務所の協力と、駐日セネガル大使の後押しもいただき、セネガルの石油・エネルギー次官とのオンラインミーティングを実現できました。この席で、同国がLNG発電船をはじめエネルギートランジションに積極的に取り組んでいくという方針を伺うことができ、本件がセネガルにとって重要なプロジェクトであることも確認できました」と、関口係員は交渉のポイントについて振り返ります。

こうして、2022年12月に、SLNGとPFによる貸付契約の締結に至りました。

日本企業が参画する新たな海洋開発を支援

日本政府が2018年に公表した「海洋基本計画」に基づく「j-Ocean」ロードマップでは、海洋開発の幅広い分野で我が国産業の技術力・生産性などの向上を図ることが掲げられています。FSRUも注力すべき案件となっており、JBICが今回のプロジェクトを金融面から支援することで、商船三井におけるFSRUの操業・保守にかかわる知見・ノウハウのさらなる蓄積・発展的活用に貢献します。

「セネガルにおけるFSRUとLNG発電船を組み合わせた事業は、低炭素化に向けたエネルギートランジションの有力手段として、アフリカだけでなく、アジアや欧州でも注目されています。造船、海運事業で世界をリードしてきた日本の海洋企業にとっては大きなビジネスチャンスです。

私は、これまで大手リース会社による航空機リース企業やコンテナリース企業のM&Aなどを担当してきました。今回の実績を生かして、LNG発電船事業をはじめ日本企業が参画する新たな海洋開発事業について、さまざまな金融手法・リスクテイク機能を通じて支援していきたいです」と関口係員は語っています。